

脳血管疾患の治療とその予後改善におけるエビデンスの確立に向けて
—基礎から臨床への発信—

徳山尚吾,^{*,a} 福永浩司^b

The Establishment of “Evidence Based Medicine” for the Treatment of Cerebral Stroke
—Bridging Basic and Clinical Sciences—

Shogo TOKUYAMA^{*,a} and Kohji FUKUNAGA^b

^aDepartment of Clinical Pharmacy, School of Pharmaceutical Sciences, Kobe Gakuin University,
1-1-3 Minatojima, Chuo-ku, Kobe 650-8586, Japan, and ^bDepartment of Pharmacology,
Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Tohoku University, 6-3
Aramaki-Aoba, Aoba-ku, Sendai 980-8578, Japan

この誌上シンポジウムに掲載された総説は、2010年3月28日に岡山で開催された日本薬学会第130年会一般シンポジウムS47「脳血管疾患の治療とその予後改善におけるエビデンスの確立に向けて—基礎から臨床への発信—」における発表内容を中心にまとめたものである。すなわち、「年会で本シンポジウムに参加したが、活字でもう一度読みたい」、「年会では他の発表を聴講したため、このシンポジウムに参加できなかったが、内容について詳しく知りたい」との要望に応えるべく企画されたものである。

脳卒中を始めとする脳血管疾患は、わが国において、がん・心疾患につぐ主死亡要因の1つである。たとえ、命を取り留めたとしても麻痺や記憶障害などの後遺症のため、その後の日常生活に不自由を来すことが多い疾患である。したがって、一度発症すると本人のみならず、その家族にも多大なる負担を及ぼすことになる。さらに、高齢化に伴った要介護者数上昇の原因疾患の第1位としても知られ、医療費の高騰という経済的側面からも脳血管疾患に対する治療並びに機能予後の改善は重要な社会的課題となっており、その対応は急務となっている。

現在、それらの課題の克服に対応すべく、脳血管

障害の領域において、基礎・臨床を問わず、精力的な研究が展開されている。2001年のエダラボンの開発を転機とし、2005年には急性期の血栓溶解剤が保険適応され、最近では血栓溶解剤とフリーラジカルスカベンジャーを組み合わせた治療効果が期待されている。しかしながら、有効治療可能時間域の狭さから、その恩恵に授かる症例は少なく、その他多くの薬剤に対して臨床試験が試みられているものの有効な治療薬はいまだ少ない。

今回のシンポジウムでは、特に「基礎から臨床への発信」とのサブテーマを掲げ、脳血管障害の発症機序の解明、及びその後続く機能障害の改善薬の開発等につながる基礎研究に従事する国内第一線の薬学研究者、福永浩司教授（東北大学）、宝田剛志博士（金沢大学：本誌上シンポジウムには参加されていません）、原英彰教授（岐阜薬科大学）、高濱和夫教授（熊本大学）、藤田（濱邊）和歌子博士（神戸学院大学）、南雅文教授（北海道大学）（発表順）を招聘し、最新の成果をご披露頂いた。まさに、これらについて討論することで、本領域におけるさらなる研究の進展と今後の臨床現場での脳血管疾患の治療とその予後改善へと結びつけるエビデンスを提供することを目的としたものであるが、期待に違わず、会場においても活発な意見交換がなされ、所期の目的は達成されたとの思いがある。是非、本誌上シンポジウムでも、その際の息吹を少しでも感じて頂きたい。また、今後も価値ある「基礎から臨床への発信」が継続してなされることを強く期待する次

^a神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室（〒650-8586 神戸市中央区港島一丁目1-3）、^b東北大学大学院薬学研究科薬理学分野（〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3）

*e-mail: stoku@pharm.kobegakuin.ac.jp

日本薬学会第130年会シンポジウムS47序文

第である。

末筆ではありますが、本シンポジウムの開催並びに本誌上シンポジウム執筆にあたり、貴重な機会を与えて頂きました日本薬学会第 130 年会組織委員長土屋友房教授、組織委員会委員並びに日本薬学会ス

タッフ関係諸氏に対しまして厚く御礼申し上げます。また、今回のご発表及びご執筆にあたり、多大なるご理解とご協力を賜りましたシンポジストの先生方にもこの場をお借り致しまして、感謝の気持ちをお伝えしたいと存じます。